

人流データを活用した 豊田市の生活圏を探る

(報告内容)

- ・人流データを活用した豊田市の日常的な生活圏を把握

(後半の討論内容)

- ・みなさんの日常的な生活圏は評価結果と同じでしたか？

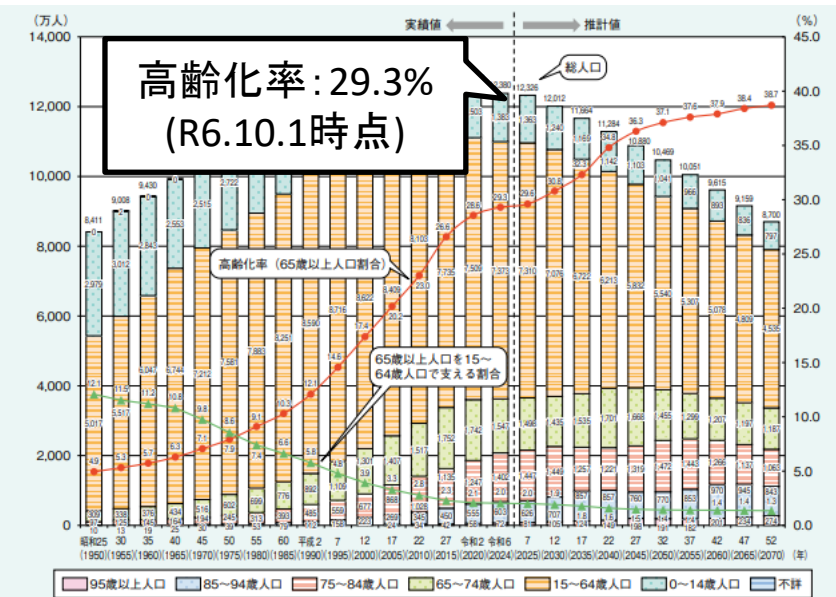
※日常的な生活圏: 買い物、通院(かかりつけ医)、趣味娯楽活動

報告者 **(公財) 豊田都市交通研究所 研究員**
大同大学大学院博士後期課程

村上滉一

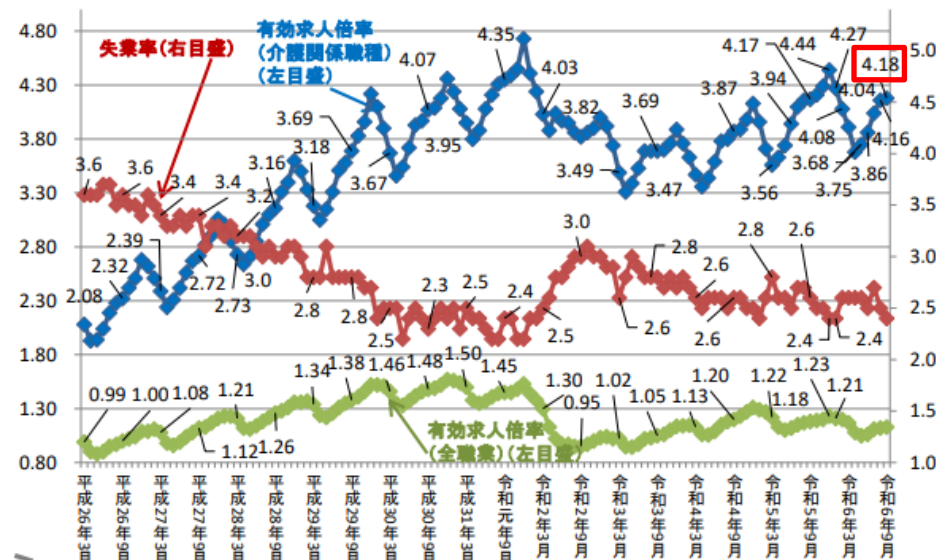
わが国の社会的な背景

少子高齢化



出典: 令和7年版 高齢社会白書

福祉サービスの提供不足



出典: 「2040年に向けたサービス提供体制等のあり方」現状と課題・論点について



○健康寿命の延伸、自立生活

老化の防止には「社会参加(外出)」、「栄養」、「運動」

身近な地域(自宅から近い範囲)でできることが望ましい

暮らしに関する政策

健康・医療・福祉のまちづくりの推進ガイドライン

住み慣れた地域に引き続き市民が集い、住み続けるための**良好な居住環境**が確保される取組と合わせ、日常生活圏域等において**必要な都市機能の確保**や、**歩行空間**、**公共交通ネットワークの充実**などを一体的に取り組むことによって、都市構造のコンパクト化を進める

地域包括ケアシステム

重度な要介護状態となっても**住み慣れた地域**で**自分らしい暮らしを人生の最期まで続ける**ことができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築**

- ・ 住み慣れた地域
- ・ 暮らし続けられる施設
- ・ 歩行空間の整備
- ・ 公共交通の確保
- ・ 生活支援システムの構築



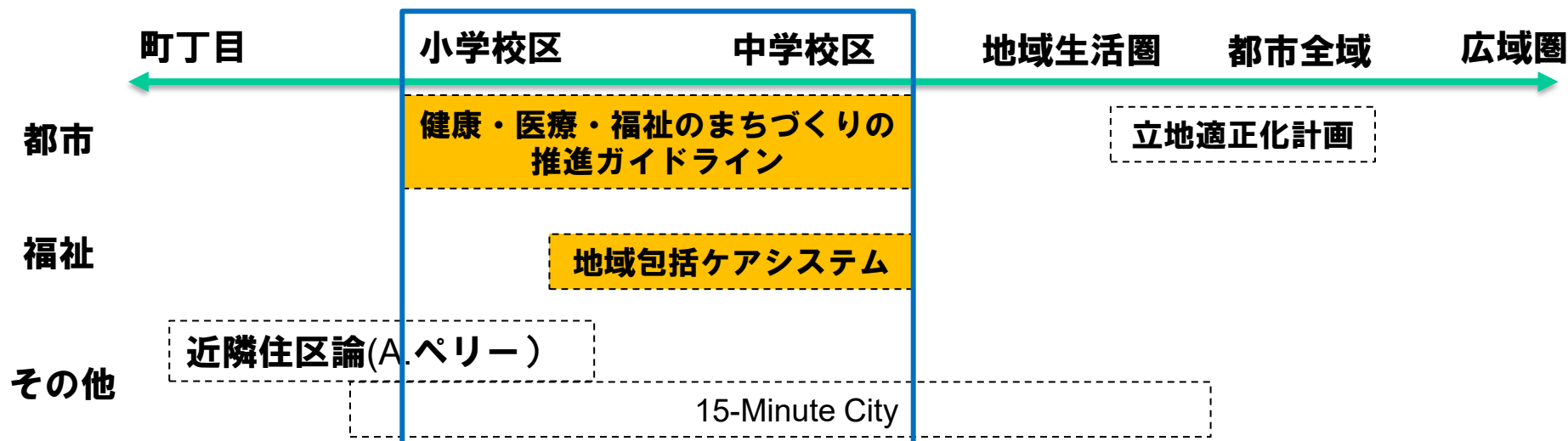
地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築**を実現していきます。
 - 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要で、
 - 人口が横ばい、75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。**
- 地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要です。



暮らしに関する政策

■暮らしに関する政策の対象範囲



■住み慣れた地域で暮らし続ける(＝自立的な生活)が送れる環境に向けて

中学校区を対象に、暮らし続けられる施設や公共交通、サービスの提供を目指している

豊田市の地域包括支援

■豊田市の地域包括支援センター(各中学校区に設置)

○主な業務内容

- ・総合相談支援
- ・介護予防ケアマネジメント
- ・権利擁護
- ・包括的、継続的ケアマネジメント支援



日常生活 圏域	中学校区
拳母	逢妻、朝日丘、梅坪台、浄水、 崇化館、豊南
高橋	高橋、益富、美里
上郷	上郷、末野原
高岡	高岡、前林、竜神、若園
猿投	井郷、石野、猿投、猿投台、保見
松平・下山	松平、下山
藤岡・小原	藤岡、藤岡南、小原
足助・旭・ 稲武	足助、旭、稲武

日常的な生活圏はどれくらいの範囲??

・樋下氏は、福井県の中心部と市街地周縁部に位置する小学校区を対象に、**高齢者の日常的に利用する施設についてアンケートした**。その結果、中心部では単独世帯以外の属性で同小学校区内、周縁部は全世帯で小学校区外への移動が多く、**周縁部ほど生活圏が広いこと**を明らかにした。

・西野氏は、石川県の3都市を対象に**高齢者の日常的な生活圏の特徴を明らかにした**。その結果、**自宅を中心とする徒歩圏域と各移動手段を用いる広域な圏域の「二層性」**が見られることを明らかにしている²⁾。また、加賀市を対象に**健康な高齢者と要支援・要介護高齢者の生活圏の拡がりを確認したところ、健康者は、1～3地区、要支援・要介護者は1地区**であり、これらは**1～3中学校区**に相当することを明らかにした³⁾。

・日常的な生活圏は、「**中学校区～中学校区以上**」

・**地域の特性によって、日常的な生活圏は異なる**

→**地域ごと**に日常的な生活圏を明らかにする必要がある

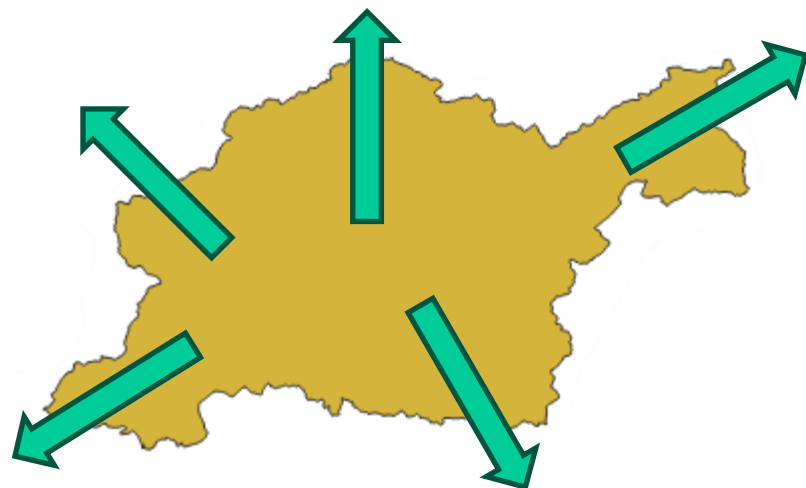
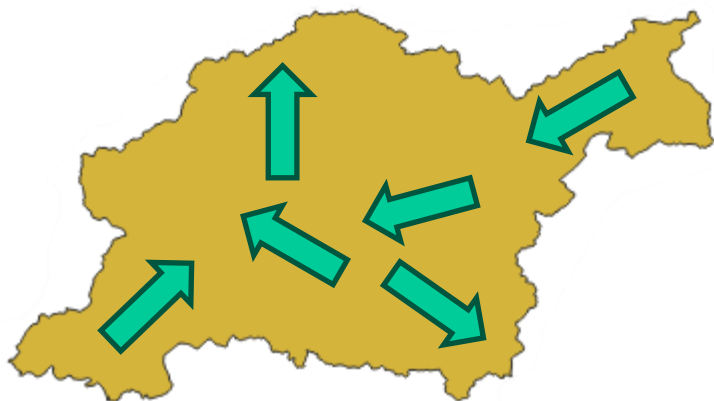
→できるだけ、**実移動データを活用して**明らかにすることが望ましいのではないか

■目的

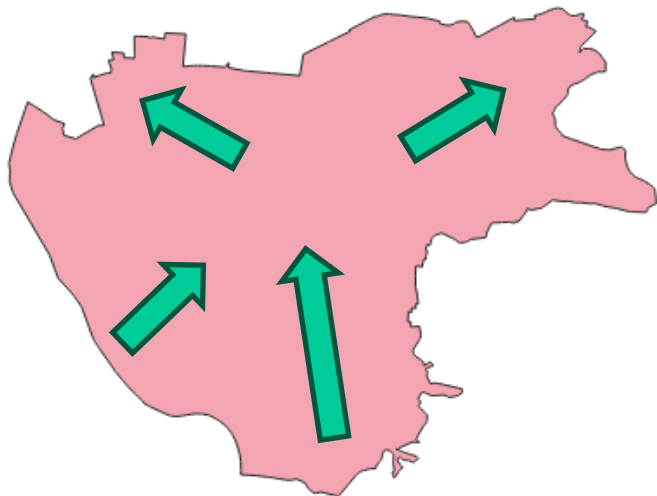
携帯電話の位置情報データを活用して、日常的な生活範囲を明らかにし、現計画の対象範囲(＝中学校区)と一致しているのかを確認

日常的な生活範囲評価の概説

1. 豊田市内/市外⇒豊田市内への移動が多いのか



2. 豊田市内のうち、中学校区内/中学校区外⇒中学校区内への移動が多いのか



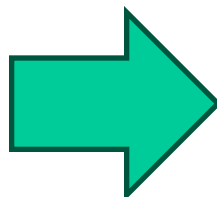
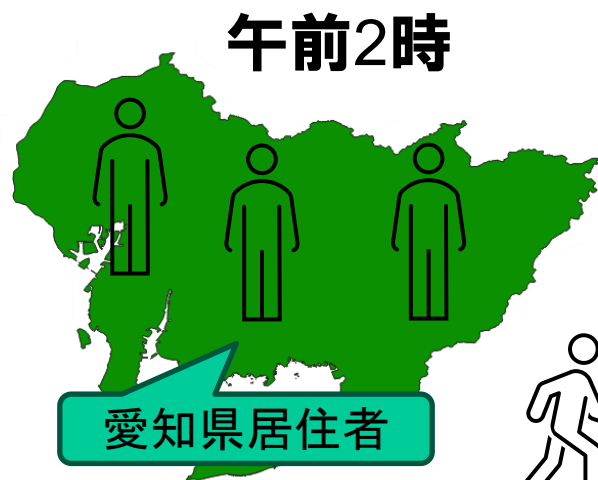
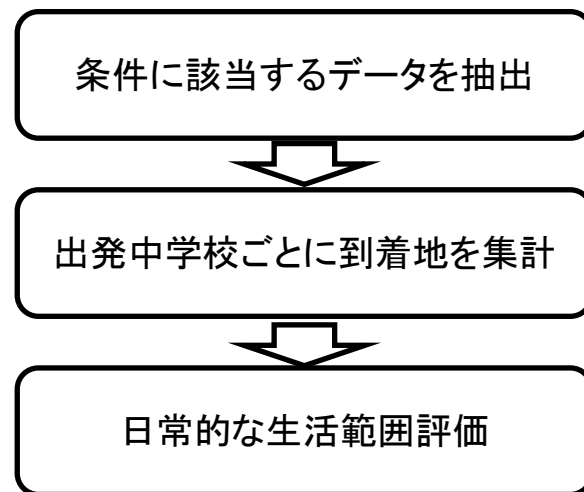
日常的な生活範囲評価の概説

■分析使用データ

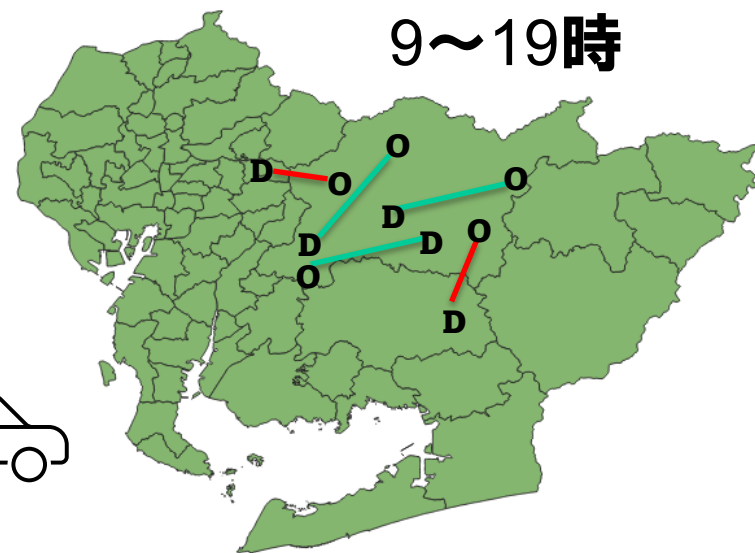
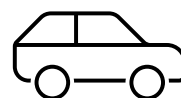
OKDDI Location Data (KLD)

- ・年月: 2023年4月の1ヶ月
- ・対象地域: 愛知県全域
- ・メッシュサイズ: 125m
- ・情報: ①出発・到着メッシュIDと市区町村コード
②移動手段(自動車、鉄道、高速、徒歩その他、滞在)
③性別(男性、女性)
④年代(20代、30代、40代、50代、60代以上)
⑤移動推定人口(拡大係数による処理済み)

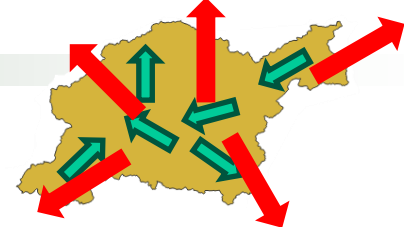
■評価フロー



もしくは



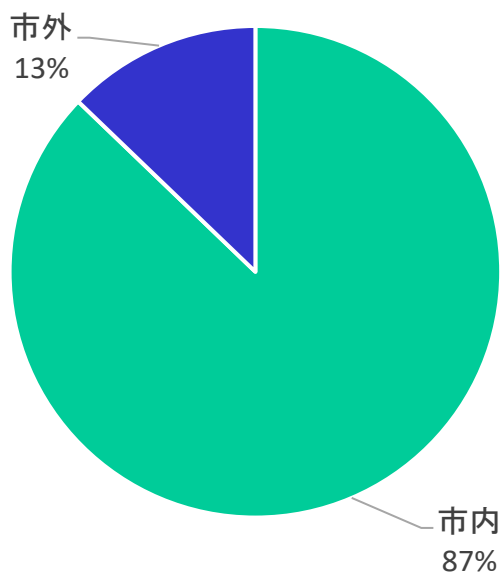
分析1：豊田市内/市外



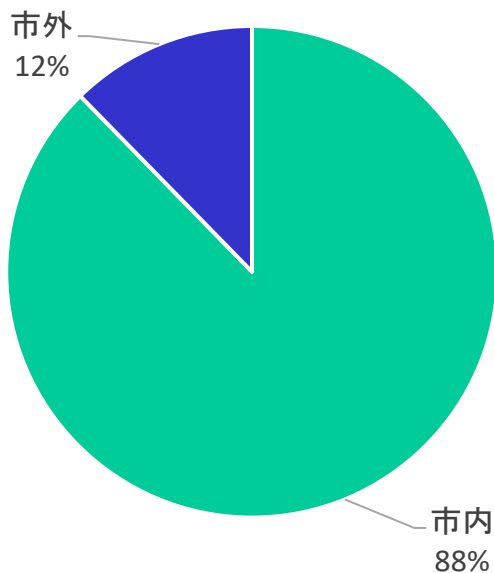
平休日とも**市内移動が85%以上**

⇒豊田市内で生活が完結している人が多いのではないか

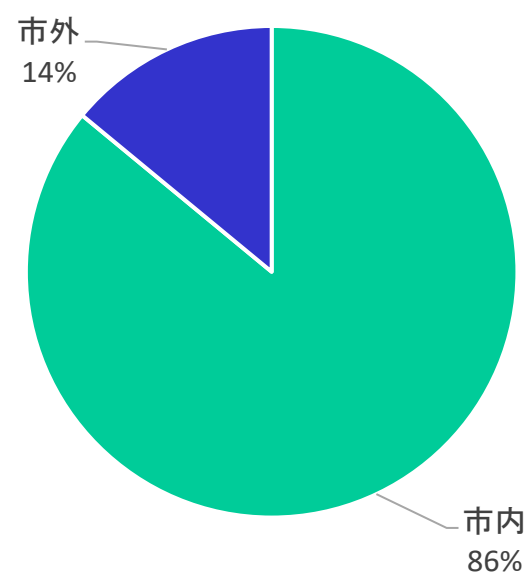
1ヶ月合計

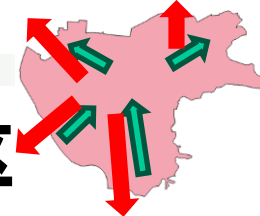


平日合計



休日合計



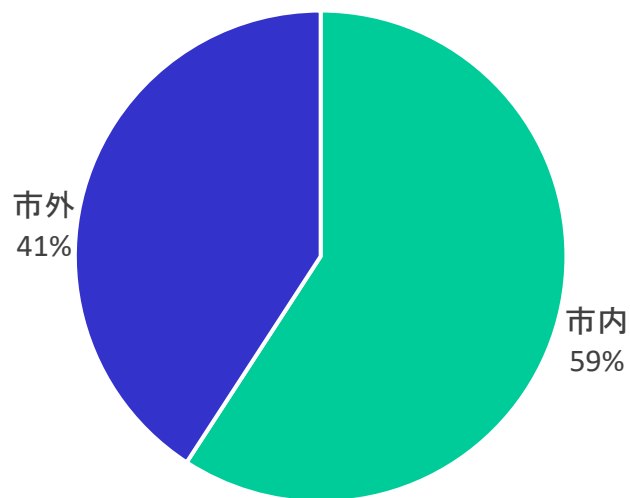


分析2：豊田市内のうち、中学校区内/中学校区

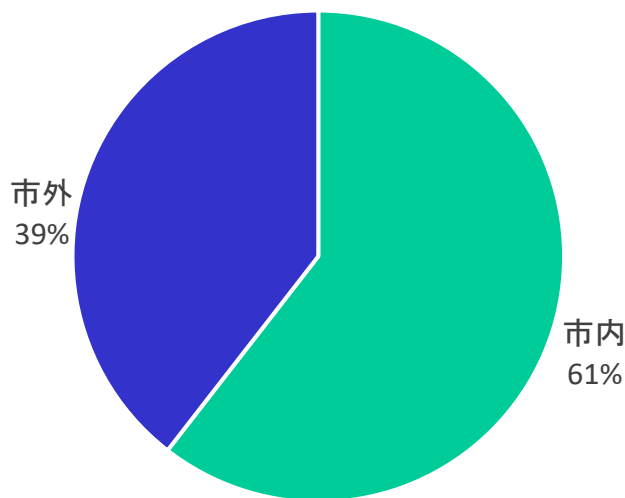
平休日とも **中学校区内移動が55%以上**

⇒中学校区内で生活が完結している人が多いのではないか

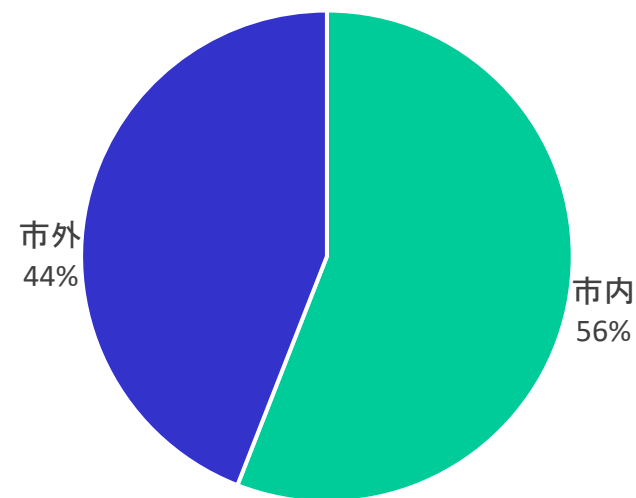
1ヶ月合計

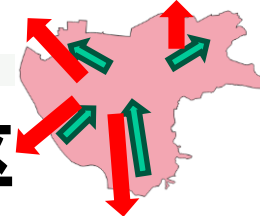


平日合計



休日合計

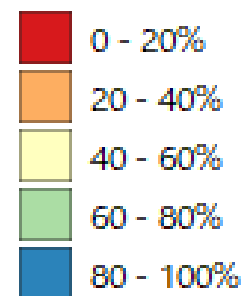
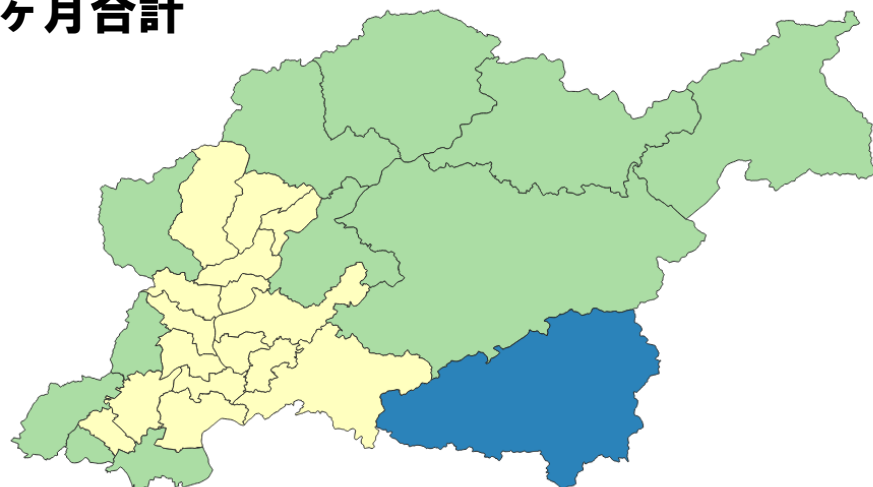




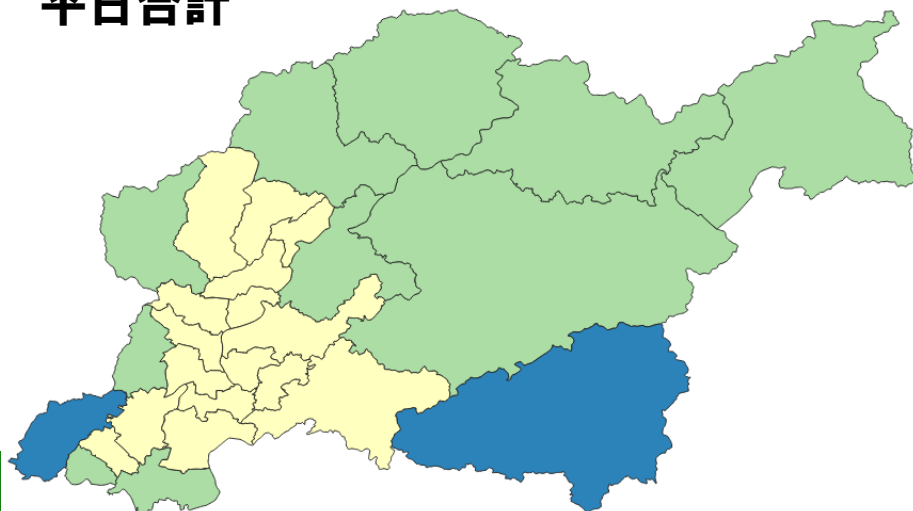
分析2：豊田市内のうち、中学校区内/中学校区

- ・全中学校区で、中学校区内への割合が40%以上
- ・市の中心部ほど、中学校区内割合が低い→学区面積が影響

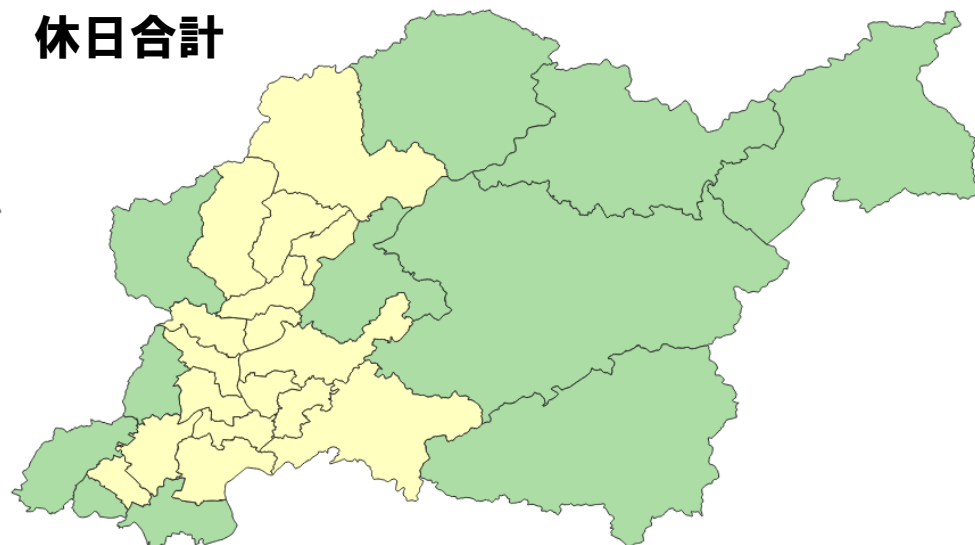
1ヶ月合計



平日合計



休日合計



分析1・2のまとめ

■分析1・2のまとめ

- ・平休日とも**市内移動**が85%以上
- ・平休日とも**中学校区内移動**が55%以上
- ・全中学校区で40%以上は**同中学校区内**

→**豊田市の日常的な生活圏は、『中学校区』**

→**豊田市の各地域包括支援センターの管轄は、中学校区で問題ないのではないか**

Q.残りの人たちは、どこに移動している??

- ・近隣の中学校区?
- ・豊田市中心部の中学校区?

■分析3

中学校区ごとに到着中学校区別の移動人数を集計

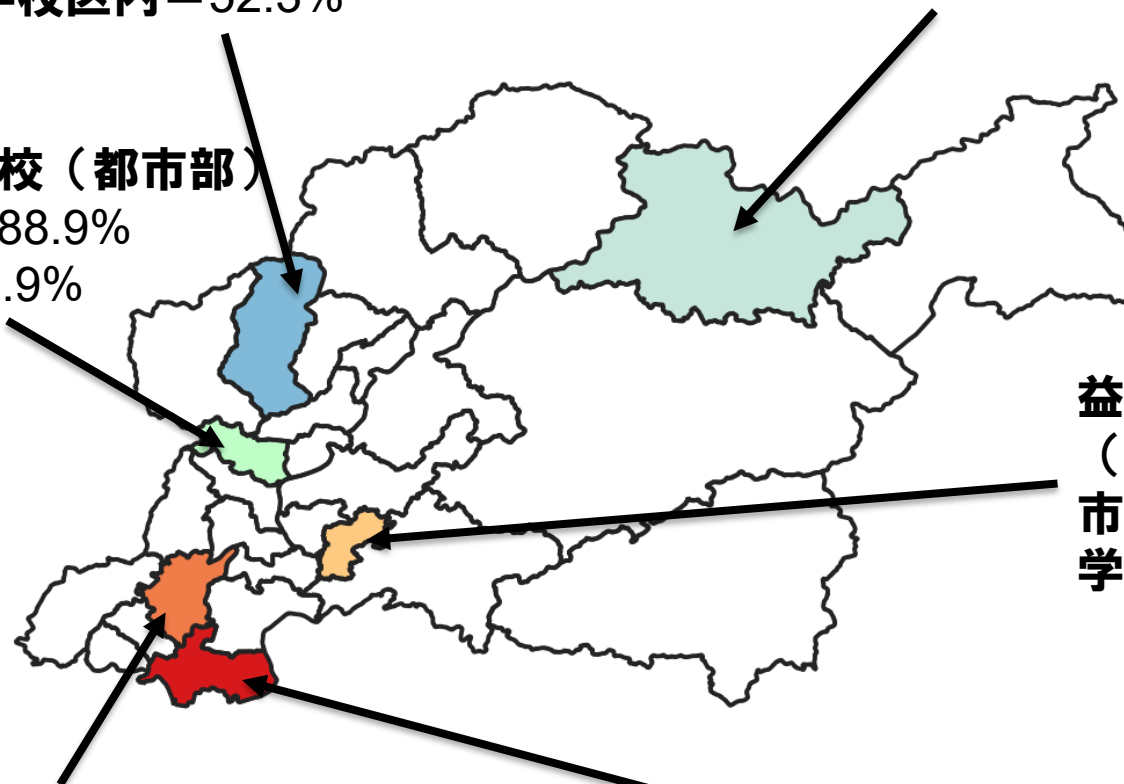
- ・中学校区 : 市内移動者を対象

分析3の対象中学校区

猿投中学校（都市部）
 市内割合 = 88.0%
 中学校区内 = 52.3%

旭中学校（山村部）
 市内割合 = 89.5%
 中学校区内 = 71.9%

梅坪台中学校（都市部）
 市内割合 = 88.9%
 学区内 = 52.9%



**益富中学校
 （都市部・ニュータウン）**
 市内割合 = 93.4%
 学区内 = 47.9%

竜神中学校（都市部）
 市内割合 = 86.5%
 学区内 = 52.1%

上郷中学校（郊外部）
 市内割合 = 74.6%
 学区内 = 71.8%

豊田市の日常生活圏域

- ・高齢者人口、地理的条件、地域特性、交通（主要国道）における人の流れ等を考慮し、日常生活圏域を設定
- ・日常生活圏域を単位として、地域密着型サービス等の提供や、地域における継続的な支援体制の整備を進めている
- ➡日常生活圏域とも一致している？

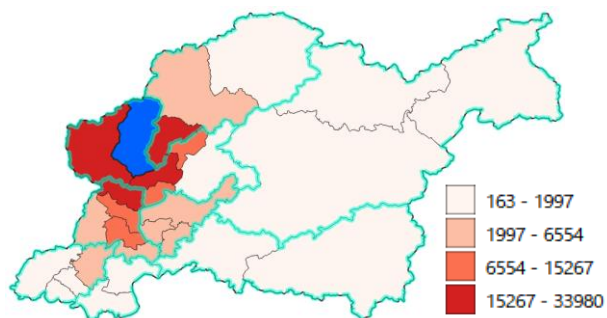


日常生活圏域	中学校区
拳母	逢妻、朝日丘、梅坪台、浄水、崇化館、豊南
高橋	高橋、益富、美里
上郷	上郷、末野原
高岡	高岡、前林、竜神、若園
猿投	井郷、石野、猿投、猿投台、保見
松平・下山	松平、下山
藤岡・小原	藤岡、藤岡南、小原
足助・旭・稲武	足助、旭、稲武

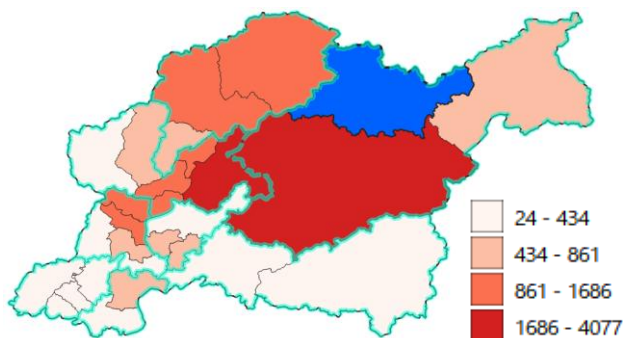
分析3：到着中学校区結果（20代以上）

・同中学校区への移動が最も多く、次いで隣接中学校区

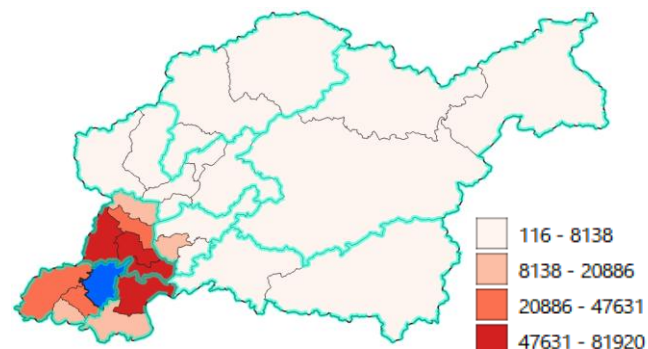
猿投中学校



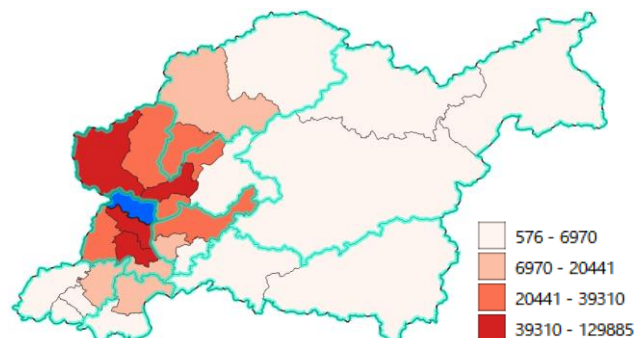
旭中学校



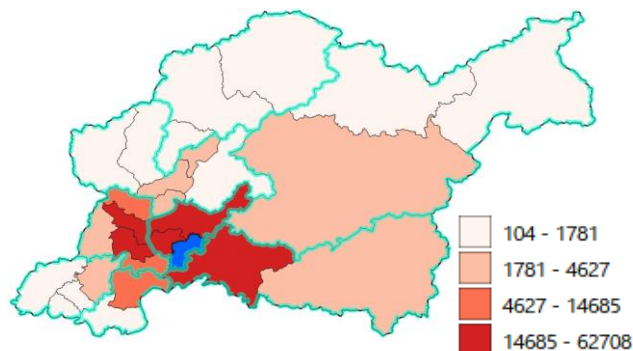
竜神中学校



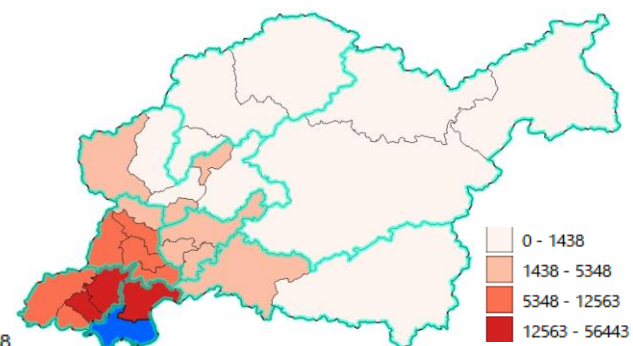
梅坪台中学校



益富中学校



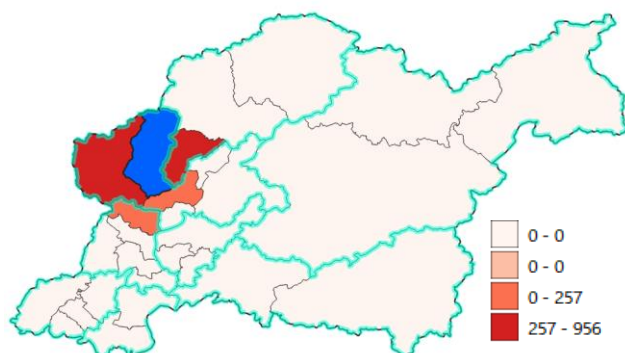
上郷中学校



分析3：到着中学校区結果（60歳以上）

- ・20代以上に比べて、目的地の中学校区が減少し、隣接中学校区へ移動
- ・日常生活圏域外への移動も確認

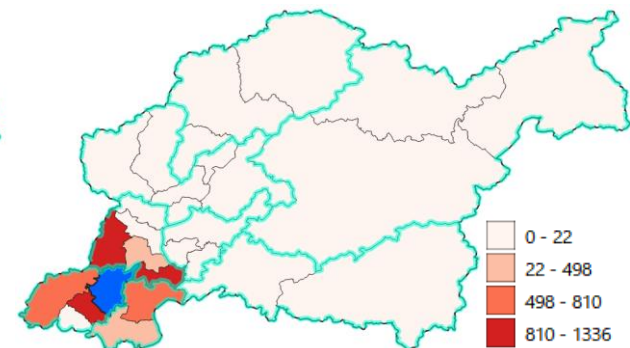
猿投中学校



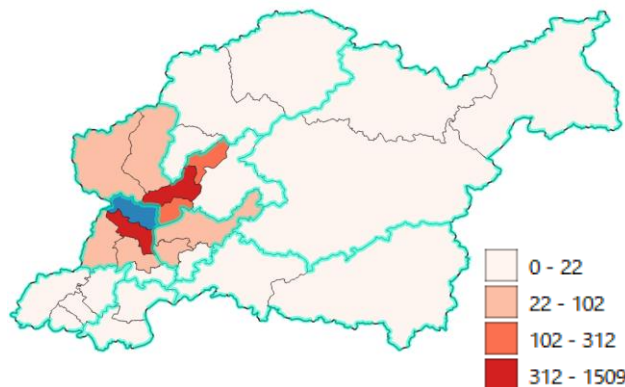
旭中学校



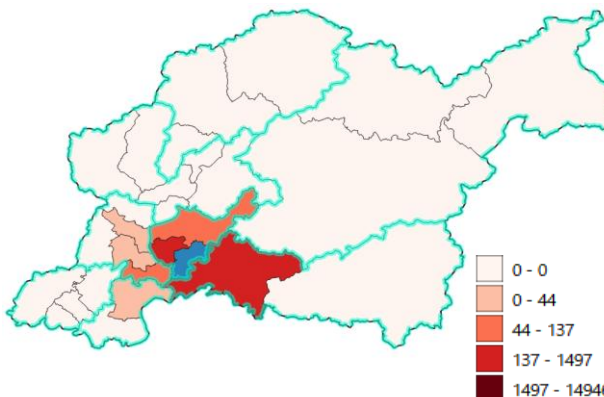
竜神中学校



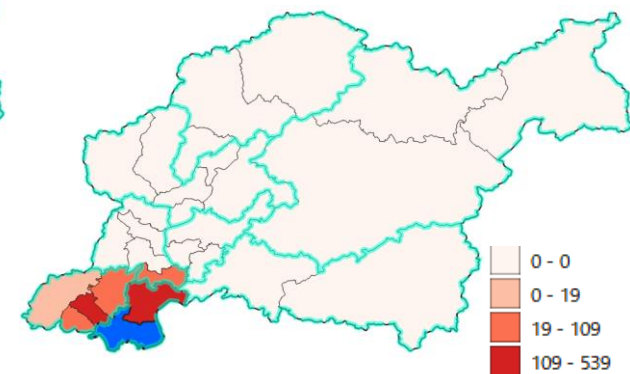
梅坪台中学校



益富中学校



上郷中学校



まとめ

- ・携帯電話の位置情報データを活用して、豊田市の実際の日常的生活移動データから生活圏を評価した

○豊田市の日常的生活圏評価

- ・豊田市内/市外で比較した結果、**豊田市内への移動が85%**
- ・市内移動のうち、中学校区内/中学校区外で比較した結果、**55%以上は中学校区内**
- ・平休日と比較すると、平日の方が市内/中学校区内の移動割合が高い
- 豊田市の日常的生活圏は、『**中学校区**』
- 豊田市の各地域包括支援センターの管轄は、**中学校区で問題ないのではないか**

○豊田市の日常生活圏域との比較

- ・日常生活圏域との比較では、**60歳以上でも圏域外への移動も確認された**
- ➡**目的地の医療・福祉・介護事業所等との連携を図るべきではないか**

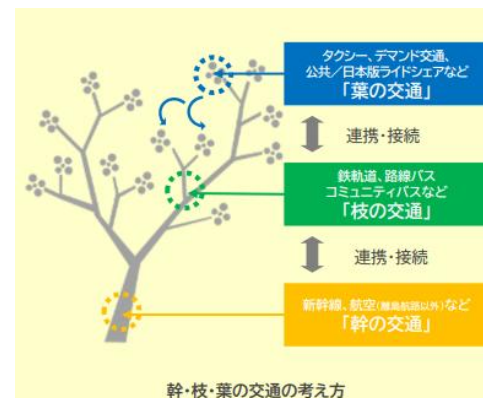
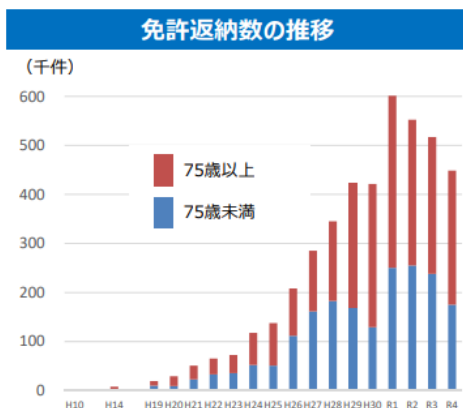
○既往研究との比較

- ・既往研究(地域や個人属性によって日常的生活範囲が異なり、中学校区以上の地域もある)と同じような結果が得られた
- ➡人流データを活用することで、**住民の日常生活圏を明らかにすることが可能ではないか**

日常生活圏の活用

■評価結果の活用

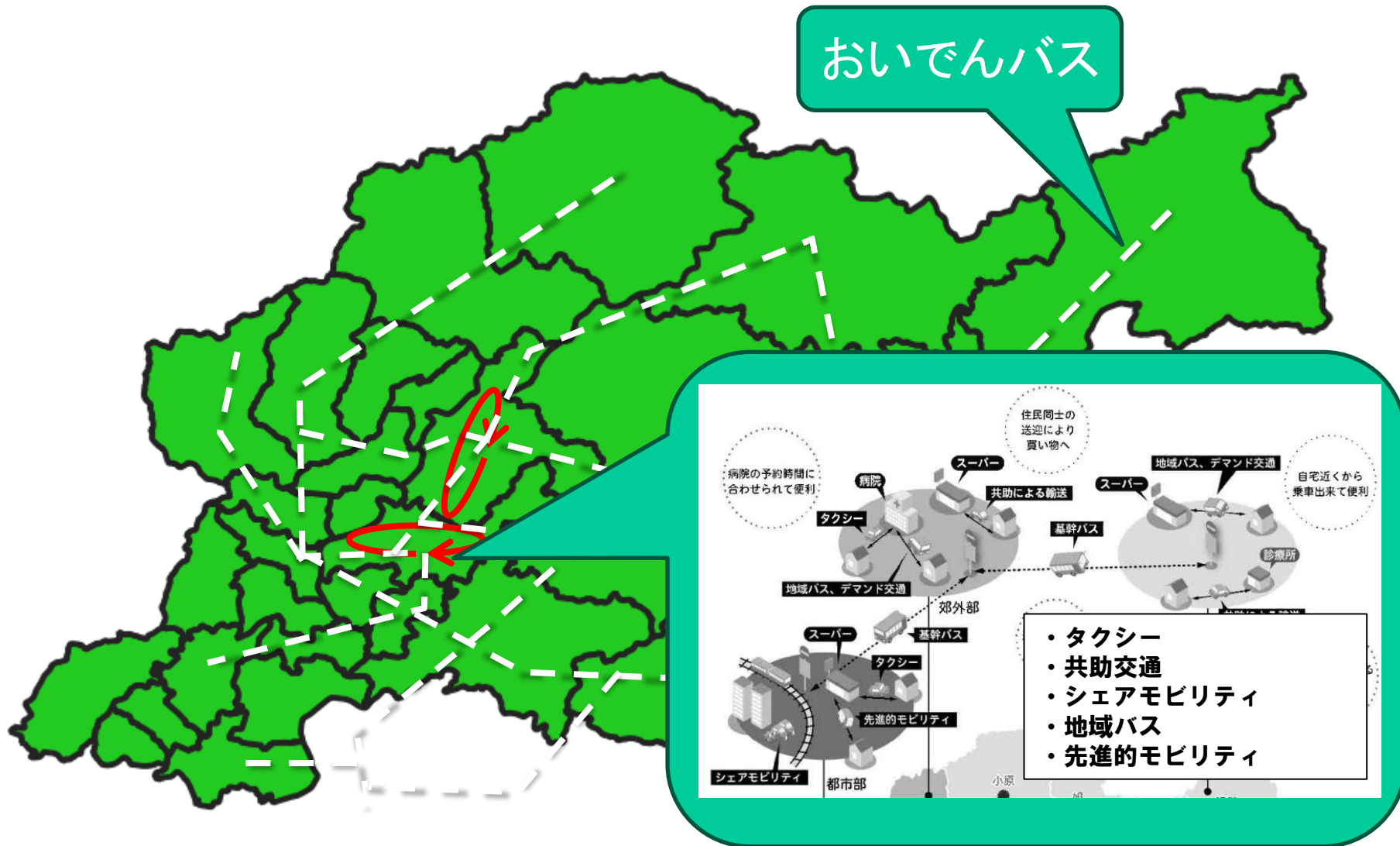
- ・「健康・医療・福祉のまちづくり推進ガイドライン」において、住み慣れた地域に引き続き市民が集い、住み続けるための良好な居住環境が確保される取組と合わせ、**日常生活圏域等**において必要な都市機能の確保や、歩行空間、**公共交通ネットワークの充実**などを一体的に取り組むことによって、都市構造のコンパクト化を推進
- ・社会的背景として、**運転免許返納者の増加に伴う、移動手段の確保(特にファーストマイル)**



✓ 中学校区内の施設整備

✓ 公共交通ネットワーク(中学校区内の移動モードの検討/基幹交通のルート…)

人流データを活用した豊田市の日常生活圏の評価結果



今後の発展・ご意見いただきたいこと

■今後の発展

- ・愛知県54市町村を対象に日常生活圏を評価
 - ・年代や性別ごとの日常生活圏の違いを評価
 - ・都市特性による範囲の違いを明らかにする
- 市町村の都市特性を明らかにすることで、携帯電話の位置情報データを購入せずとも、行政は自市町村の日常生活圏がわかる知見を得る

■ご意見をいただきたいこと

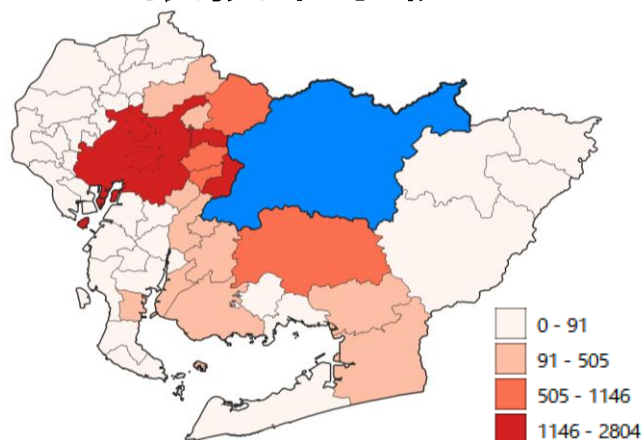
- ・みなさんの日常的な生活圏は、中学校区内ですか？
- ・中学校区外の場合は、どれくらいの範囲まで移動していますか？

※日常的な生活圏：買い物、通院（かかりつけ医）、趣味娯楽活動

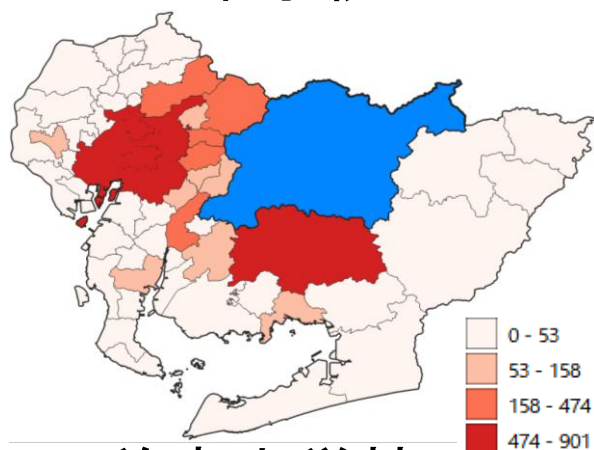
(補足) 到着市町村結果

- ・南部の中学校区は岡崎市や知立市、西部は名古屋市やみよし市へ移動
- ・いずれも隣接市町村への移動が多い傾向

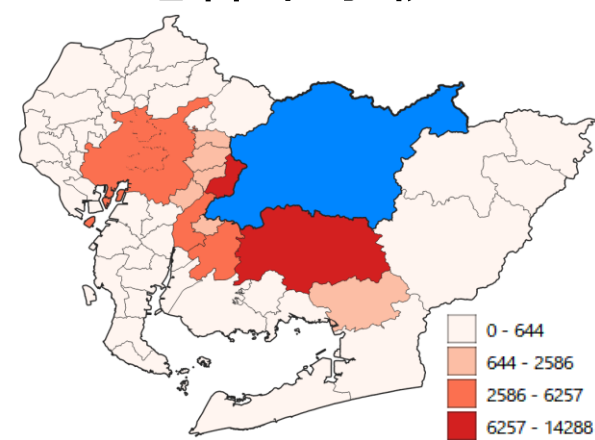
猿投中学校



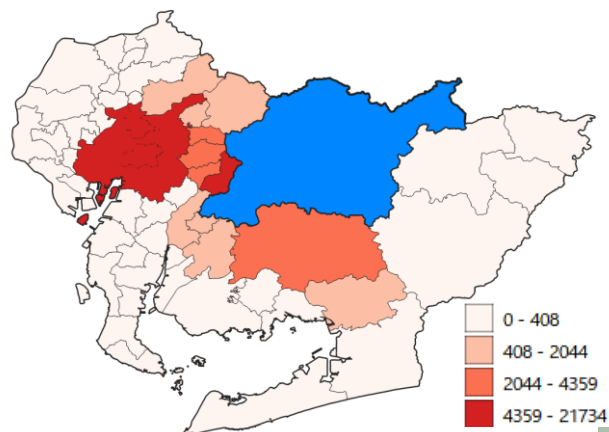
旭中学校



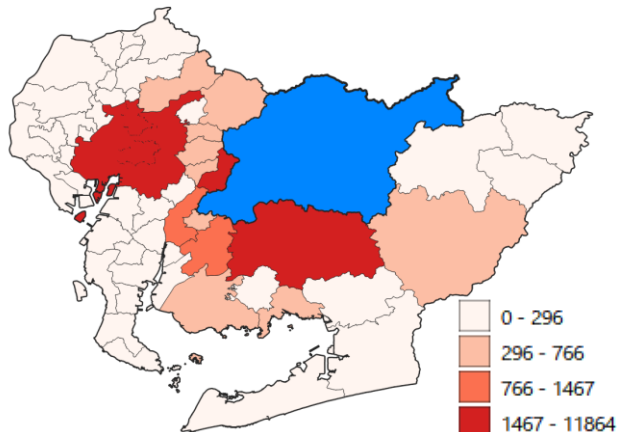
竜神中学校



梅坪台中学校



益富中学校



上郷中学校

